Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

029

子どもと自然のかかわりについての研究.1
ー英国(U.K.)の幼児教育における一考察ー

大澤　力（東京家政大学）

はじめに

日本には豊かな四季がある。春の満開に咲き誇る花々・夏のせせらぎに跳びはねる魚たち・秋のたわわに実る果実・冬の白一色に着飾った雪原など四季は子どもたちの世界に大きな感動を与え、心身の望ましい成長をもたらしてくれる。このような日本の自然は、新幼稚園教育要領でも「環境」の「内容の取り扱い2」で「幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心の安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること」といった事項でも明快に述べられている。

一方、現代は情報化の時代とか、国際化の時代などと様々な場面で叫ばれて、久しく時が過ぎている。例えば、環境問題を取り上げてみても、近くは隣国・遠くは地球の裏側のことを配慮に入れずして、その全容は掴めないのである。このような時代に、子どもと自然のかかわりについても、広く世界の状況を把握しつつ、我が日本の教育を見つめるべき時期にあると考え、本研究に取り組むものである。幸い自然は、世界中どこにでも存在する東洋の日本にも西洋の英国（U.K.）にも・・・

ところで、なぜ英国かというと、自然科学の歴史を紐解いてみるとボイル・ニュートン・スチーブンソンなど、自然科学の発展に大きく寄与した人物が多数現れているのが英国なのである。また、自然に関する教育としての自然科（Nature Study）の歴史も古く、自然の保護や自然を生かした遊びの工夫など日本の保育に活用しやすいものを多く含んでいると考えられるからである。

筆者は、ここ数年英国の教育事情、特に生物教育や幼児教育を中心に資料による調査を実施してきた。さらに、昨年暮れには英国へ出向き、幼稚園や保育園、植物園や動物園などその実際の姿に触れてきた。今回はこれらの調査研究で得られた内容の一部を考察し報告するものである。今後もさらに研究を進めつつ、子どもと自然のかかわりに関する教育の発展に資することが本研究の目的である。

方法

本研究は、文献調査と実地調査から構成されている。英国（U.K.）の幼児教育における自然とのかかわりに着目し、その歴史的流れと現状を概観しつつ考察を実施する。なお、実地調査は1999年12月の一週間、筆者が単身英国に出向き行ったものである。

結果および考察

文献調査：

英国では、人間の精神や価値観にかかわる事柄はあくまで個人の問題であり、国家や政府がこれに関与すべきでないといった思想が永く主流であった。したがって、学校教育もこの伝統に沿っており、各学校ごとに校長を中心とした独自の教育がなされることは、当然のことと考えられてきた。しかし、20世紀も終盤に差し掛かった頃、あの英国病という言い方で代表される経済・政治・教育など様々な場面で退廃的な状況が露呈していた。サッチャーが鉄の女として英断を振るったのもこの頃である。教育もこれまでの各学校ごとのまちまちの教育ではなく、国家としての一つの方向性が強調されたものとなってきた。それがナショナル・カリキュラムの登場(1988)である。そして、現在、自然はSCIENCEの中味として位置づけられているのである。

第二次世界大戦後からこれまでの幼児教育や自然の教育にかかわる主な制度の流れを以下に示す。

◎1944　教育法（バトラー法：Butler Act)

・幼児教育は初等教育の一環として法的に位置づけられ、5歳児から義務教育がスタートする。

＊英国の幼児教育は初等教育に組み込まれている

◎1967　児童と初等学校

（プラウデン報告：Plowden Report)

・幼児教育の主体は家庭、特に母親であること。

3～5歳児が幼児教育を受けられるよう施設を整えると共に保育施設と教育施設の統合を提案。

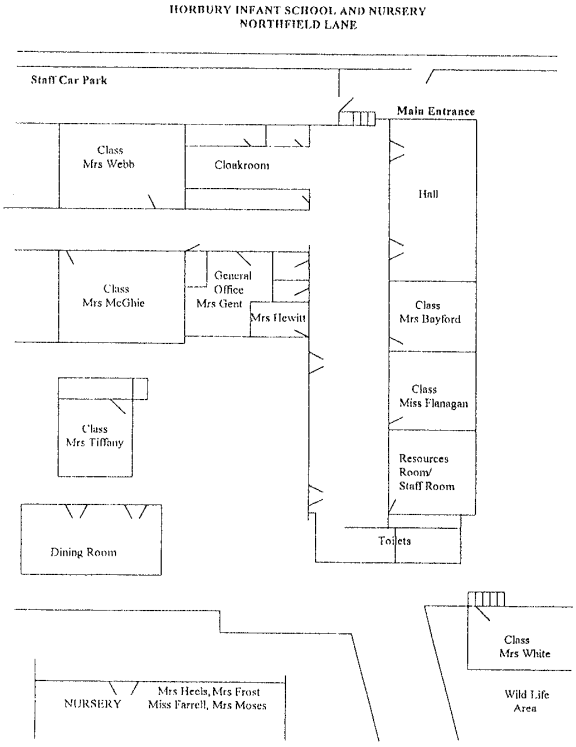
◎1960　ナフィールド理科教授計画

（初等理科：Nuffield Junior Science)

・理科は身のまわりにあるありふれた教材を使用して、いつでも、どこでも行うことのできる発見の方法を学習する教科である

NII-Electronic Library Service

◎1967　サイエンス5～13（Science 5/13）
・子どもの経験を拡げて探求心や疑問に対する科学的な取り組み方を育てる
◎1974　13歳以下の児童の理科
(Sciencen for the Under-Thirteens)
・自己学習が中心でこれまでの枠を越えた多くの教材が扱われ、特に総合的な展開による自然環境や自然保護に関する事柄など社会に目を向けた学習により「良き市民としての人間形成」が強調される。
◎1988　1988年教育改革法
(1988 Educatino Reform Act)
・国民の学力を向上させ、選択の幅を拡げ、よりよく教育された英国を産み出す為の新しい枠組みを創りだす為とされる。
◎1988　ナショナル・カリキュラム
(National Curriculum)
・教科は全部で10科目からなり、義務教育期間（5歳～16歳の11年間）を通じて教育される。
・核教科(Core subjects)：英語・数学・科学
・基礎教科(Foundation subjects)：
美術・地理・歴史・外国語・音楽・体育・技術
＊外国語のみ11歳から
・初等理科教育は科学（Science）のキーステイジ1･2であり、レセップションクラスの5歳児はナショナル・カリキュラムの適用外として位置づけられた。
・Key Stage1・2は科学的な調べ,生きることや生きているもの,物とその性質,自然の原理や現象といった4項目から構成されている。



実　地　調　査：
実地調査を行うにあたり、特殊な事例ではなく、極く一般的な自然と教育現場を対象にしたいと考えた。そこで、英国では5歳からが義務教育である為、幼小併設である郊外の中規模公立学校を選定した。

◎調査期間：1999年12月14日～20日、その前後にも連絡をとり打ち合わせや調査を実施。
◎名称：ホーブリー小学校・幼稚園
(HORBURY INFANNT SCHOOL
AND NURSERY UNIT)
◎住所：Northfield Lane,Horbury,
Wakefield,WF45DW
◎学校長（Headteacher）：Mrs J H Hewitt

◎1999年～2000年の年度クラス配分および配置図：
1999年9月現在、6つの能力混在クラスがあります。
主任教諭一人と常勤教諭六人が担当します。

The staff are as follows:

Deputy Headteacher:	Mrs J E McGhie
Nursery teacher in charge:	Mrs L Heels, Mrs C Frost
Nursery Nurses:	Miss D Farrell, Mrs A Moses
6 - 7 year old - Year 2	Mrs J E White
6 - 7 year old - Year 2	Mrs J L Tiffany
5 - 6 year old - Year 1	Mrs M M Webb
5 - 6 year old - Year 1	Mrs J E McGhie
4 - 5 year old - Reception	Miss J Flanagan
4 - 5 year old - Reception	Mrs S Bayford
Secretary:	Mrs K Gent
Clerical assistant:	Mrs K Dorsett
Non-teaching assistant:	Mrs M Davies
Non-teaching assistant for Special Needs children:	Mrs J Garlick
Caretaker:	Mr. N Reid
Dinner Supervisors:	Mrs V Hall Mrs L Hicks Mrs W Crook Mrs G Radcliffe Mrs S Blakey Mrs J Gomersall

＜調査内容の詳しい分析や考察は発表で述べる＞

NII-Electronic Library Service